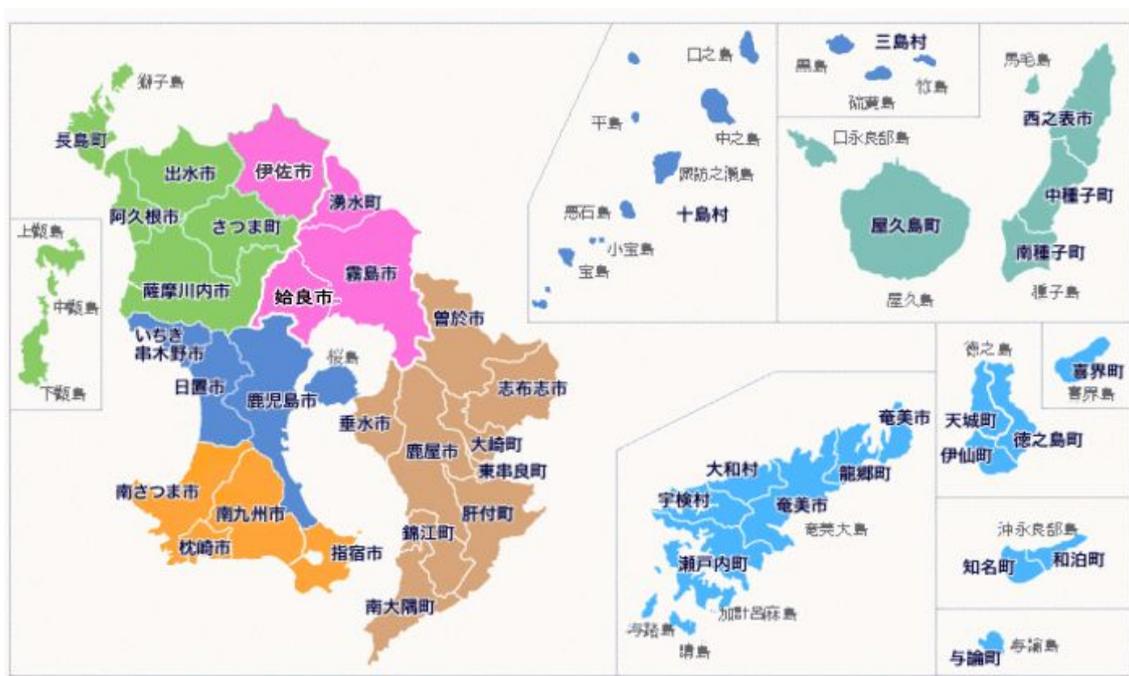


令和7年度

鹿児島学力・学習状況調査について
(令和8年1月調査)



〈県ホームページより〉

令和8年3月



鹿児島県教育委員会

目次

I	調査の概要	1
II	学力調査の結果	3
III	各教科の結果詳細	
1	国語	4
	・ 小学校第5学年	
	・ 中学校第1学年	
	・ 中学校第2学年	
2	社会	10
	・ 小学校第5学年	
	・ 中学校第1学年	
	・ 中学校第2学年	
3	算数・数学	16
	・ 小学校第5学年	
	・ 中学校第1学年	
	・ 中学校第2学年	
4	理科	22
	・ 小学校第5学年	
	・ 中学校第1学年	
	・ 中学校第2学年	
5	英語	28
	・ 中学校第1学年	
	・ 中学校第2学年	
IV	質問調査の結果概要	
1	児童生徒質問調査の結果（抜粋）	34
2	学校質問調査の結果（抜粋）	35
3	授業に関すること	36
	(1) 授業の理解について	
	(2) 授業の内容について	
	ア 主体的・対話的で深い学び	
	イ 個別最適な学び，協働的な学び	
	ウ やりがいを感じる授業	
4	「学びに向かう力，人間性等」に関すること	47
	(1) 自己肯定感について	
	(2) 自己調整について	
5	学習環境（読書，ICT）に関すること	53
	(1) 読書について	
	(2) ICTについて	

V	質問調査の結果詳細	
	～学力調査とのクロス集計・経年比較～	
1	授業に関すること	57
	(1) 「授業の理解」×「小学校第5学年当時（令和4～7年度）との比較」	
	(2) 「主体的・対話的で深い学び」×「教科正答率」	
	(3) 「個別最適な学び，協働的な学び」×「教科正答率」	
	(4) 「やりがいを感じる授業」×「教科正答率」	
2	「学びに向かう力，人間性等」に関すること	65
	(1) 「自己肯定感」×「教科正答率」	
	(2) 「自己調整」×「教科正答率」	
3	「学習環境（読書，ICT）」に関すること	73
	(1) 「読書」×「教科正答率」	
	(2) 「ICT」×「教科正答率」	
VI	指導法改善のポイント	
1	国語	78
	・ 小学校第5学年	
	・ 中学校第1学年	
	・ 中学校第2学年	
2	社会	87
	・ 小学校第5学年	
	・ 中学校第1学年	
	・ 中学校第2学年	
3	算数・数学	96
	・ 小学校第5学年	
	・ 中学校第1学年	
	・ 中学校第2学年	
4	理科	108
	・ 小学校第5学年	
	・ 中学校第1学年	
	・ 中学校第2学年	
5	英語	118
	・ 中学校第1学年	
	・ 中学校第2学年	

『コラム』

- | | | |
|---|--|----|
| ① | 調査結果をスコア化するのはどうしてですか？ | 32 |
| ② | 「CBTならではの問題」とはどのような問題ですか？ | 33 |
| ③ | 学校質問調査と児童生徒質問調査において意識の差が見られるのはどうしてですか？ | 41 |
| ④ | 自己肯定感を高めるにはどのような取組が必要ですか？ | 67 |
| ⑤ | 家庭学習と学校の授業にはどのような関係がありますか？ | 71 |

I 調査の概要

趣旨・目的

学習指導要領において身に付けることが求められている知識及び技能や思考力、判断力、表現力等に関する学力の状況を把握するとともに、児童生徒の学習に関する意識などの学習状況、学校の取組状況を把握する。

また、CBTで実施することにより、一人一人の児童生徒が自らの学力や学習の状況を振り返ることで、自らの学びに生かすとともに、児童生徒の情報活用能力の育成につなげる。各学校では詳細な分析を個別最適な学びに活用するなど、指導法改善を図り、児童生徒の確かな学力の定着や向上を推進する。

調査の対象学年，学級等

調査日時	○ 学習状況調査：令和7年11月4日（火）～11月28日（金） ○ 予備調査：令和7年11月4日（火）～11月28日（金） ○ 学力調査：令和8年1月13日（火）～1月23日（金） ○ 学校質問調査：令和7年11月4日（火）～11月28日（金）
調査対象	・小学校（小学部）第5学年，中学校（中学部）第1，2学年 ・学校管理職
調査事項	(1) 児童生徒：学習状況調査（20分），予備調査（1教科のみ：30分） 学力調査， （小学校（小学部）は，国語，社会，算数，理科：40分） 中学校（中学部）は，国語，社会，数学，理科，英語：45分） (2) 学 校：学校質問調査
調査問題	○ 学習状況調査は，調査対象者の学習に関する意識や学び方などの学習状況について質問により調査する。 ○ 予備調査は，学力状況調査の経年的な伸びを算出する目的で，20問程度の選択式問題（問題及び結果は非公開）について調査する。 ○ 学力調査は，主として「知識・技能」に関する内容と，「思考・判断・表現」に関する内容について出題し，調査対象教科の学力の定着状況（当該学年の12月終了程度までを範囲とする）について調査する。 ○ 学校質問調査は，学力向上の取組，校内研修の状況について質問により調査する。
今年度の調査の特徴	CBTによる解答方式で実施

学校種	学年	実施校	調査児童生徒数
小学校（小学部）	第5学年	454校	12,888人
中学校（中学部）	第1学年	213校	12,494人
	第2学年	213校	12,175人

※ 県内の公立小学校，義務教育学校の第5学年，公立中学校の第1学年及び第2学年，並びに義務教育学校の第7学年及び第8学年の全児童生徒を調査対象とする。ただし，複式学級を有する学校においては，履修していない内容を調査から除外して実施する。

※ 本調査に関わる調査問題，報告書等において，義務教育学校の第7学年を中学校の第1学年，義務教育学校の第8学年を中学校の第2学年，義務教育学校の前期課程を小学校，後期課程を中学校と読み替えることとする。

なお，小・中学校，義務教育学校における特別支援学級の児童生徒については，該当学年の学習内容を履修していない教科・内容を調査から除外して実施する。特別支援学校においては，該当学年の学習内容を履修している児童生徒を調査対象とする。

※ 調査対象学年に在籍者がいない学校は除く。

※ 調査児童生徒数は1教科でも学力調査を実施した児童生徒の総数を示す。

調査結果の集計・分析

(1) 各学校・各教員

自校の児童生徒の調査結果について、C B Tシステムの集計結果を参考にしながら分析を行い、その後の指導方法等の改善に生かすとともに、保護者に対して説明責任を果たす。

(2) 各市町村教育委員会

自市町村の調査結果について、C B Tシステムの集計結果を参考にしながら、自市町村の学力向上や指導法改善の取組に生かす。

(3) 県教育委員会

調査結果を分析し、県全体の学力の定着状況や学習状況、指導方法の工夫改善の参考となる資料等を作成し、県教育委員会のホームページに公表することにより、各学校の学力向上の取組を支援する。

本報告書に出てくる言葉・グラフ等の見方

○ 学力調査の結果については、各教科上段に平均正答数、中段に平均正答率、下段に平均スコアを表示しています。

○ 本報告書で使用している言葉について

・ スコア

予備調査から学年間の学力差を推定し、中学校第1学年を基準（スコア500）にして得点を表したものの。スコアの見方については、32ページを参照してください。

・ 中央値

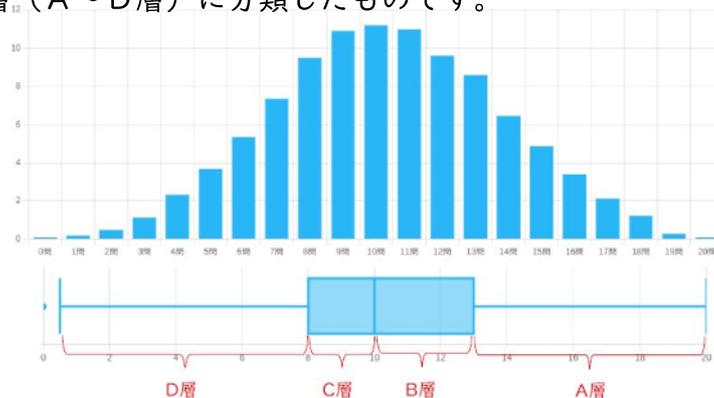
データを大きさの順で並べたとき、ちょうど中央に位置する値です。

・ 標準偏差

データの散らばりの大きさ（ばらつき）を表し、標準偏差の値が小さいほど、データが平均の近くに集まっていることを表します。

・ 四分位

児童生徒の正答数分布の状況を、概ね25%ずつになるように区切って、四つの層（A～D層）に分類したものです。



【層分布A～Dについて】

A層（第3四分位数以上、最大値以下）・ B層（第2四分位数以上、第3四分位数未満）

C層（第1四分位数以上、第2四分位数未満）・ D層（最小値以上、第1四分位数未満）

Ⅱ 学力調査の結果

県の平均正答数・平均正答率・平均スコア

	国語	社会	算数・数学	理科	英語
小5	10.3/20問 (51.7%) スコア 451	11.1/20問 (55.4%) スコア 461	6.9/16問 (43.0%) スコア 468	13.5/23問 (58.7%) スコア 487	
自校	/20問 (%) スコア	/20問 (%) スコア	/16問 (%) スコア	/23問 (%) スコア	
中1	14.9/25問 (59.4%) スコア 500	11.4/23問 (49.7%) スコア 500	7.6/16問 (47.5%) スコア 500	12.0/24問 (50.1%) スコア 500	10.9/18問 (60.5%) スコア 500
自校	/25問 (%) スコア	/23問 (%) スコア	/16問 (%) スコア	/24問 (%) スコア	/18問 (%) スコア
中2	13.5/26問 (52.0%) スコア 524	13.3/24問 (55.3%) スコア 519	6.6/18問 (36.9%) スコア 516	11.6/24問 (48.2%) スコア 507	8.1/18問 (44.8%) スコア 529
自校	/26問 (%) スコア	/24問 (%) スコア	/18問 (%) スコア	/24問 (%) スコア	/18問 (%) スコア

分析結果活用のポイント

- 最も高い正答率の教科は、中学校第1学年の英語（60.5%）、最も低い正答率の教科は、中学校第2学年の数学（36.9%）となっています。
- 中学校第1学年を基準（平均スコア 500）として、小学校第5学年では理科（487）、中学校第2学年では英語（529）が高い結果となっています。
- 平均正答数や平均正答率による比較だけではなく、システムの「カスタム集計」を活用し、「問題別調査結果」や「類型別調査結果」、「クロス集計表」から詳細な分析を行い、児童生徒の状況を把握しながら授業改善につなげることが大切です。
- 「受検者個人レポート」を用いて、子供と一緒に成果や課題、個の伸びを確認するとともに、調査結果を子供自身がこれからの学習へ生かすことができるように、手立てを工夫する必要があります。
- 職員研修の機会を設定し、本報告書の空欄に自校の結果を記入して現状を確認したり、報告書を読み合わせたりしながら、組織的に取組を進めることが重要です。